

厚生労働科学研究費補助金  
障害者対策総合研究事業（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））  
アルコール依存症に対する総合的な医療の提供に関する研究  
（研究代表者 樋口 進）

平成 26 年 平成 28 年度総合分担研究報告書  
アルコール依存症の普及・啓発に関する研究  
研究分担者 米山 奈奈子  
国立大学法人秋田大学大学院医学系研究科精神保健看護学 教授

研究要旨：本研究では、平成 26 年度にアルコール依存症の普及啓発に関する DVD を実際にアルコール依存症の相談に関わっている保健所の協力を得て作成し、平成 27 年度 平成 28 年度で全国の精神保健福祉センター69 か所、保健所 480 か所と精神科病床を有する国立病院及び公立病院 175 か所、全国市保健センター等 794 か所に配布した。平成 28 年度にはこれまでの DVD の配布先を対象として、DVD の評価に関するアンケート調査を行った。その結果 106 施設より回答があった。DVD の内容はほぼ理解できた割合が高かったが、当事者及び家族の回復に繋がる効果的な支援の方法についてあまり知らない・全く知らないと答えた割合が 27%であった。またアルコール依存症の相談を受ける場合には 8 割以上の施設が困っていることがあると回答し、困っている内容の内訳では多い順に相談技術の不足、連携できる医療機関が少ない、マンパワーの不足があげられた。

#### A．研究目的

アルコール依存症に関する一般市民への知識の普及・啓発及び関係機関の相談活動の促進を目指して、教育媒体としての DVD を作成し、また作成した DVD の評価を行うことにより今後のアルコール依存症の啓発活動のための示唆を得ることを目的とする。

#### B．研究方法

平成 26 年にはアルコール依存症について正しい知識の普及・啓発を目的とした DVD を、アルコール依存症の家族相談を実際に行っている保健所の協力を得て作成した。DVD の内容は知識編と、再現ドラマを含む相談編の二部構成で編集されている。平成 27 年度から平成 28 年度には作成した DVD のコピーを全国の精神保健福祉センター69 か所、保健所 480 か所、精神科病床を有する国立病院及び公立病院 175 か所、全国市保健センター等 794 か所、総計 1518 か所に配布した。平成 28 年度は前述の 1518 か所に DVD 評価アンケートを郵送し、作成した DVD の評価を行った。DVD を視聴した後で評価アン

ケートに施設単位で任意で協力していただくよう書面で研究協力について説明した。アンケートは施設の職員によって無記名自記式で記入後、研究者あてにファックスで返送していただくよう依頼した。返送された調査票は、単純集計を行った。

なお、調査への協力が無い場合であっても各機関には不利益がないことを書面に明記した。調査期間は 2017 年 1 月から 3 月である。

調査内容は、記入者の属する施設の種類の、記入者の職種、年代といった基本情報の他、DVD を視聴してのアルコール依存症に関する理解、アルコール依存症の相談窓口に対する理解、相談機関の役割に対する理解、当事者支援に有効な支援技法に関する理解、各施設でアルコール依存症の相談を受ける場合に困難を感じる内容、DVD の職場での活用方法を含んでいる。

本研究は平成 26 年度秋田大学医学系研究科保健学研究審査委員会の審査を得て行った。

#### C．研究結果

平成 28 年度に回収できたアンケートは 106

件で回収率は 7.0%であった。106 件を全て有効回答とした。DVD を視聴してアルコール依存症が回復する可能性がある病気であることがよく理解できた、だいたい理解できたを合わせると 93.4%、あまり理解できなかったは 6.6%であった。アルコール依存症のご家族が相談できる場所があること、および相談窓口としての精神保健福祉センター・保健所や保健師の役割についてはほぼ理解されていた。しかし、当事者支援のための効果的な支援の方法について、よく知っていた 29.2%、言葉だけ知っていた 42.5%、一方で、あまり知らなかった・全く知らなかったを合わせると 27.3%であった。また、職場でアルコール依存の相談を受ける場合に困っていることがあると答えた施設の割合は、83.0%で、困っている内容の内訳は多い順に、相談技術の不足、連携できる医療機関が少ない、マンパワーの不足、知識不足・研修会などの機会がない、自助グループなどの情報が少ないことがあげられた。DVD の活用については、試しに職員で視聴(67 施設)、職員等の研修で視聴(28 施設)が多かったが、一般住民向けの健康講座などで活用(13 施設)、一般向けに健診等の待ち時間に活用(7 施設)、必要な人に貸し出している(29 施設)であった。自由意見では、困難ケースの対応を DVD の中でさらに考えてほしいという意見があった一方で、『健康講座に活用し

た。受講された方は顔きながら視聴していた。』

『今まではアルコール依存症のご本人に対し、治療を強制できない、本人の意志が重要と考えていた。しかし、この DVD を視聴して考えが変わった。ご本人が治療の意志がない段階でも、家族や医療職が根気強く関わることの重要性に気づくことができた。』という感想が述べられていた。

#### D . 考察

アルコール依存症の普及啓発に関する DVD は、全国の関係機関 1518 か所に配布できたが、アンケートの回収率は 7%と低かった。調査時期及び調査方法のさらなる検討が課題である。アンケートの結果から、アルコール依存症者の当事者及び家族への効果的な支援方法については、特に行政や市役所の保健センターでスキルアップを目指すニーズが高いと考えられる。しかし、実際にはほとんど相談を受けていない・関わっていないという施設もあるため、今後も相談技術を広める活動は非常に重要であると考えられる。また、少数意見だが、アルコール依存症当事者への関わり方や考え方を見直す契機になったという意見もあり、今回の DVD 作成および配布が一部の医療関係者のアルコール依存症の理解を深める一助になったのではないかと考えられる。